

水稻中期栽培講習会 資料

令和5年7月20、21日

J Aたかさき

西部農業事務所普及指導課

栽培管理

生育時期	水管理	注意点等
分けつ前期	浅水	<ul style="list-style-type: none">・ ガスの発生がある場合は、間断かん水を実施し、有機物の分解に伴う根部の機能低下を防止する
分けつ後期 移植後30~35日	中干し	<ul style="list-style-type: none">・ 有効茎数が確保されたら5~7日程度実施・ 土に小ひび（深さ1cm以内）が入り、足跡がつく程度で終了・ 中干しの効果：無効分けつの抑制、根の健全化、倒伏防止 <p>※コシヒカリ等倒伏しやすい品種-早め（長め）</p> <div data-bbox="667 824 1455 994" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e0e0e0;"><p>◎ 1株当たり有効茎数の目安 コシヒカリ・ひとめぼれ：18~20本 あさひの夢・ゆめまつり：20~22本 程度</p></div>
最高分けつ期 田植後37~40日	間断かん水	<ul style="list-style-type: none">・ 中干し後の根は根腐れを起こしやすいので、走り水で徐々に入水し、間断かん水（2日湛水・3日落水）を実施
幼穂形成期 出穂期前25日頃	浅水	
減数分裂期	間断かん水	
穂ばらみ期 出穂期 穂ぞろい期	湛水	<ul style="list-style-type: none">・ 出穂期7日前後は、水を切らさないようにする
乳熟期	間断かん水	<ul style="list-style-type: none">・ 高温時の水管理（高温登熟障害対策）で玄米品質の低下を防ぎましょう <div data-bbox="603 1659 1506 1944" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #4a86e8; color: white;"><p>◎ 出穂後20日間の日平均気温が27℃を超えるとき（最高気温30℃以上、最低気温25℃以上） →かん水回数を増やすなど水温低下を図る</p><p>◎ フェーン現象など高温・乾燥の強風 →風がやむまで湛水</p></div>
黄熟期 出穂後30日以降	落水	<ul style="list-style-type: none">・ 早期落水は登熟阻害の原因となるため、落水は出穂後1ヶ月以降とし、乾燥しすぎるときは走り水を行う



小ひびの目安



白未熟粒

カリの中間追肥

【効果】 登熟歩合の向上・粒の肥大・稈質の強化・根張り向上
→倒伏防止・病害抵抗性の向上・高温登熟障害対策につながる

施用時期	肥料名：施肥量	
出穂前30～50日	ケイ酸加里：30kg/10a	塩加加里：10kg/10a

穂肥

【効果】 1穂粒数の増加、粒の肥大促進、登熟歩合の向上
稲体の活力維持を行うことで高温登熟障害対策としても有効

品種名	窒素分量(kg/10a)	時期	幼穂長
あさひの夢	2～3	出穂前20日頃	約0.5cm
ゆめまつり			
ひとめぼれ	2	出穂前15日頃	約2cm
コシヒカリ	1.5～2	出穂前10日頃	約1～2cm

※葉色が濃い場合などは穂肥の量を調整し、窒素過多で倒伏や病害が発生しないように注意する

雑草防除

雑草の種類や大きさを確認し、除草剤の散布適期を失ないように防除を行う

- ・後発の個体は、早めに中後期除草剤で除草する
- ・それでも取りこぼしがある場合は、次作に影響するため、可能であれば抜き取りで除去する

【生育後半に問題となっている雑草】

◎一年生広葉雑草

・**ホソバヒメミソハギ**

種子の寿命が長い、連年による防除

・**クサネム**

種子が成熟、落下する前に除去

◎畦畔から「ほふく茎」を伸ばして増殖する

・**アゼガヤ**（一年生イネ科）

・**キシュウスズメノヒエ**（多年生イネ科）

畦畔周辺で雑草を抑制する

水田内に侵入し根づいた株は、早い時期

に手取り除草を行なう



ホソバヒメミソハギ



クサネム



アゼガヤ



キシュウスズメノヒエ

いもち病

※気象状況に注意し、早期防除を

【発生しやすい条件】

- ・ 平均気温19～25℃
- ・ 降雨頻度が高く、多湿
- ・ 夜間の風が弱く、朝露の乾きが遅い
- ・ イネが軟弱徒長気味で葉色が濃い

【防除対策】

- ・ 定期的に観察し、早期発見に努め、葉いもちの初期病斑の発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う
- ・ 穂いもち防除 粒剤：出穂前20日から 液剤：穂ばらみ期及び穂ぞろい期



紋枯病

※紋枯病の発生は倒伏を助長するため、多発ほ場では防除を行う

【発生しやすい条件】

- ・ 前年に発病した株に形成された菌核が病気の原因となる
- ・ 幼穂形成期以降の高温・多湿条件が続くと多発する
- ・ 窒素過多等で過繁茂・軟弱徒長で発生しやすい

【防除対策】

- ・ 防除適期：幼穂形成期～出穂期



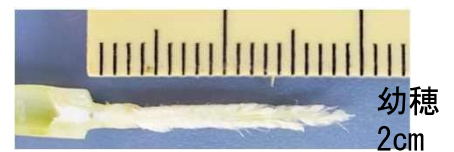
稲こうじ病

【発生しやすい条件】

- ・ 前年多発ほ場
- ・ 出穂20日前～出穂期頃の低温・日照不足・多雨

【防除対策】

- ・ 適切な施肥、遅効きにならないように追肥にも注意する
- ・ 発病した籾は早期に取り除く
- ・ 薬剤の効果のある時期は出穂前のため、防除時期を逃さないようにする
- ・ 幼穂（1～5cm程度）が形成されていることを確認して→散布する



防除時期目安	適用病害虫	薬剤例
出穂14～10日前	いもち病	ゴウケツ粒剤・パック
出穂期前後	いもち病	ノンブラスフロアブル
出穂21～14日前	稲こうじ病・紋枯病	モンガリット粒剤
出穂21～10日前	稲こうじ病	ドイツボルドーA
出穂7～10日後	カメムシ類	スタークル粒剤・豆つぶ

【農薬の適正使用について】 農薬の登録内容：令和5年7月1日現在

- ・ 最新の情報を確認し、適用作物、使用時期、使用方法等を守って使用
- ・ 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認
- ・ 農薬を使用したら記帳
 - ・ 隣接したほ場へ飛散させない

斑点米カメムシ類

【特徴】

- ・ 水稲では穂を吸汁し斑点米を生じさせる
- ・ カメムシ類が好む雑草は、イネ科雑草やイヌホタルイ

【対策】

- ・ 水田周辺の雑草管理を行う
- ・ 粒剤による防除時期の目安は、出穂後7～10日後



斑点米



ミナミアオカメムシ



クモリカメムシ
ホソハラカメムシ

8月		9月			10月
中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	

水田周
辺の雑
草管理

穂ばら
み期

出穂
期

穂ぞろ
い期

傾穂
期

収穫
期

侵入・加害時期

防除時期目安：出穂後7～10日後

収穫適期の目安

適期収穫に努め、刈り遅れによる品質低下を防ぐ
コンバイン収穫は、籾水分25%以下になってから行う
積算温度や帯緑色籾歩合は参考として、籾水分を見ながら総合的に判断する

品種ごとの収穫適期（目安）		
品種	出穂後の積算温度	帯緑色籾歩合
あさひの夢	1,000～1,100℃	10%
ゆめまつり	1,000～1,150℃	20%
コシヒカリ・ひとめぼれ	950℃	10%

※出穂後の積算温度・・・出穂期以降の日平均気温を足し上げた数値

※帯緑色籾歩合・・・穂の中で緑色の籾の割合

収穫適期の目安

※脱穀籾は含水量が高く変質しやすいため、計画的に刈り取り、収穫後速やかに乾燥を行う

- ・ 籾の水分含量が18%までは通風のみで乾燥し、その後送風温度40～50℃以下、穀粒温度35℃以下を目安に加温乾燥し、定期的に水分含量を調べる
- ・ 水分目安 仕上がり水分含量 籾 14.0～14.5%
玄米 14.5～15.0%

※過乾燥は胴割れ米を増加させ、食味を低下させるので注意する

- ・ 米選機の網目は1.80mm以上とし、整粒歩合80%以上を目標とする

◎農作業時の事故には十分に注意しましょう。

◎熱中症に注意して無理のない作業を心がけてください。